

～ 街なかコミュニティスペースづくり ～

深川市内の4つの商店街による連合会。空き店舗の増加等が課題となっている中で、空き店舗を活用した公共スペース「コミュニティスペースきなんせ」を設置して、「中高年向けのiPad教室」の開催や「まちゼミ」などを実施。地域コミュニティ機能の充実に寄与している。



所在地：北海道深川市4条9番40号

TEL・FAX：0164-23-4595

URL：<https://www.fukanavi.com/zmucfzxzkomg/>

会員数：4 所属員数：102名

商店街の類型：市内4商店街の連合体

商店街の概要と事業を実施した背景

4つの商店街は、JR深川駅前の中心市街地に隣接して立地。郊外にスーパー、近隣に大型店が出店し、中心部である4商店街内に食品スーパーが無くなるなど、競争によって日常的な買い物頻度が高い業種が減少したことから通行量が減少、賑わいも低下していた。

そこで、商店街にある空き店舗を活用し、地元の大学・高校と連携し学生と商店街が地域活性化に取り組む拠点とした。具体的には、市内の各種団体やサークルが街なかで活動する場、商店街でのお休みどころ・高齢者サロンとして開放するスペースなどとする「街なか拠点」を開設した。これらの場所を地域の様々な組織や団体が街なかを使った取組みを進める拠点とし、各種イベントの発信場所としていくことで街の魅力を高め、商店街へ地域住民の来街を促すことを目的とした。

実施した事業の概要

【空き店舗活用拠点「コミュニティスペースきなんせ」の開設】

高齢者の利用が多い商店街では、スタッフ1名が常駐し、利用者の見守り、各種イベント時のサポート・案内等のコンシェルジュ的機能を果たした。また、利用者に対し女性メンバーが交代でお茶などのおもてなしを行う等のサービスを行った。また、広報活動として、オープンに合わせ7月から1月まで月1回(計7回)「きなんせ通信」を発行。地域世帯へ配布し商店街の情報誌とすることで、歳末大売出し等イベントの周知や参加者の募集等に活用し効果を上げた。

①学生との連携

拓殖大学北海道短期大学との取組みでは、約100人の学生が企画段階から参加しオリジナルイベントを展開するなどの積極的な活動を行ってもらった。このことは、商店街の賑わいにつながったと多くの方々から評価された。

また、北海道深川東高等学校との取組みでは、広告やポスター、オリジナル商品の開発などに取組んでもらい、その後12月に学校での課題研究発表を行なうなどの成果が見られた。

②少子高齢化の取組

深川市高齢者支援課と協議のもと、女性部の協力を得て今後の高齢化社会に対応した商店街を目指す取組みを行った。また、子育て親子のための事業「子育てサロン」では、深川市図書館の協力で「赤ちゃんへの本の読み聞かせ教室」、有資格者による「ベビーマッサージ」の講習会を実施。地元女性グループの協力で各種手づくり講習会を開催した。

③まちゼミ

まちゼミを開催し、個店のPRと共に商店街ファンを増やす取組みを進めた。特に、商店街の若いメンバーが中心となり企画・運営を行った。テーマを少子高齢化に即した内容とし計3回開催。各店舗の講師には大変ご苦労を願った。まちゼミは注目度も高く好評であったことから、次年度に向けた事業展開も検討している。



成果と成功の要因

高齢者が多い商店街で、休憩スペースがあることはとても喜ばれ、気軽に皆さんが集まって会話する場所としても活用され、様々な方々の密度の濃いコミュニケーションの拠点となった。このことにより、目的であった来街者の増加と回遊性を高めることにつながることができた。

また、街なかの同じ拠点(空き店舗)で期間を空けずにまちゼミ等のイベントを続けたことで、いつも何かやっているというイメージを創り出し、中心部へ足を運んでいただくきっかけとすることができた。特に、大学生や高校生が参加した取組みによって、学生・その家族の商店街利用も増加した。

今後の取組み

事業終了後も商店街が中心となり、市・商工会議所と連携した「空き地・空き店舗活用支援の在り方に関する検討会」の組織体制を継続し、今回事業の実績・評価を踏まえてより実効性のある取組みを検討、実施していく予定である。

事業継続のための資金手当てとしては、連合会のイベント費を充てることや、市・商工会議所による支援も視野に入れ検討していく。また、今回の事業実施による連携や協働関係を基礎として、費用自体を低く抑える効率的な運営も検討していく予定である。